

5月例会は『せかいのおきく』

阪本順治監督、黒木華主演の時代劇

若葉の薫る季節になりました。いかがお過ごしでしょうか。今年の春は雨が多く、4月16日夜には、とんでもない大きさの雹(ひょう)が降りました。農作物や畑のハウス、車、ガレージと被害は広範囲に広がりました。みなさんのおうちは大丈夫でしたか。(我が家の車は凹凸が付きまして)さて、3月例会では、一般の方236名の方が参加し、一緒に映画を楽しみました。4月20日には総会を開催し、会員140名をめざして2024年度も会員を増やし安定した運営を継続していかなければいけないと、運営委員一同気を引き締めています。

例会のお知らせ

■名称/第129回例会『せかいのおきく』

■日時/2024年5月22日(水)

①PM2:00~、②PM4:20~、③PM6:40~

■場所/加古川総合文化センター大会議室

(JR東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付/入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きしていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終わってから「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル/『せかいのおきく』

■監督/阪本順治

■出演/黒木華、寛一郎、池松壮亮、眞木蔵人、佐藤浩市、石橋蓮司

■データ/2023年、日本、90分

■ジャンル/時代劇、ヒューマンドラマ、ラブストーリー

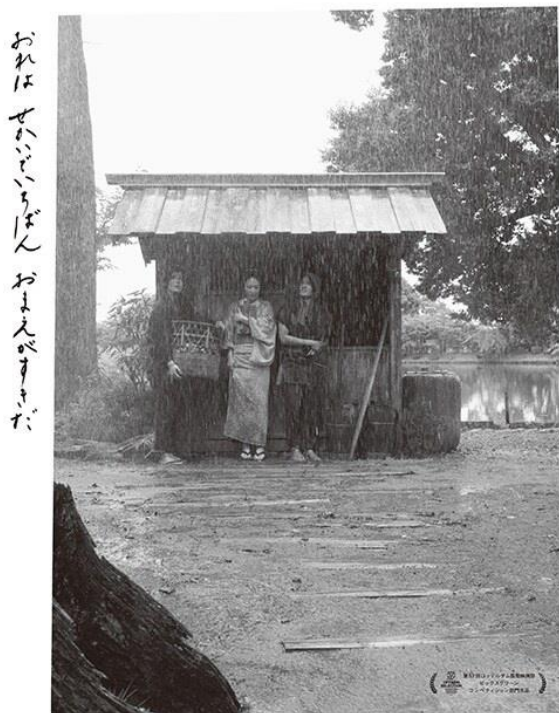
■ストーリー/22歳の“おきく”は、武家育ちでありながら今は貧乏長屋で父と二人暮らし。毎朝、便所の肥やしを汲んで狭い路地を駆ける“中次”のことをずっと知っている。ある時、喉を切られて声を失ったおきくは、それでも子供に文字を教える決意をする。雪の降りそうな寒い朝。やっとの思いで中次の家にたどり着いたおきくは、身振り手振りで、精一杯に気持ちを伝えるのだった。

江戸末期、東京の片隅。おきくや長屋の住人たちは、貧しいながらも生き生きと日々の暮らしを営む。そんな彼らの糞尿を売り買いする中次と矢亮もまた、臭い汚いと罵られながら、いつか読み書きを覚えて世の中を変えてみたいと、希望を捨てない。お金もモノもないけれど、人と繋がることをおそれずに、前を向いて生きていく。そう、この「せかい」には果てなどないのだ。(作品ホームページから)

定例総会の報告

2024年度総会を4月20日(土)午後4時から加古川町粟津の喫茶加古川珈琲で行いました。出席者4人、委任状11人。計15名で議案の検討をし、ほぼ原案どおり議決されました。まず、2023年度の活動報告と決算報告について。一般オープンの特例例会(3月・桜色の風が咲く)での利益と郵送料の節約(切手の寄付ご協力ありがとうございました)で黒字となりました。最も大きな課題である会員数については、平均122名となかなか増やすことができませんでした。現在121名。

議案1「役員」は、代表委員に山本芳明さんと千知佐子さん、事務委員に山本さん、菅さん、監査委員は松本さんで



おれは
せかいのおきく
およんばすきた

脚本監修 金井正樹
阪本順治 原田満生 黒木華 寛一郎 池松壮亮 眞木蔵人 佐藤浩市 石橋蓮司

せかいのおきく

©2023 Shochiku G.K. All Rights Reserved. 加古川シネマクラブニュース Vol. 132 2024.05.09号 第2版

す。議案 2「活動計画」では、9 月例会まで作品が決まりました。8 年前から行っている明石シネマクラブとの例会相互参加事業は好評で、引き続き継続します。運営委員会は、偶数月第 3 土曜日 16 時から北在家「加古川珈琲」で開いています。(6 月 22 日・8 月 24 日)どなたでも参加できます。一度覗いてみてください。上映作品は、今の会員数・財政状況では、121,000 円が上限です。もう少し余裕があれば、一番のおススメ作品を多く上映できます。また、頭を悩ませているのが、この秋からの郵送料の 20 円以上の値上げです。お友達誘って会員をふやしていきましょう。

その他 7/27・28 と「やんばるフェスティバル」(全国映連主催・沖縄)が開催されます。運営委員会から 1 名参加します。

私の映画KAN『バジュランギおじさんと小さな迷子』

インドの気のいい青年と、声を出せないパキスタンからの迷子の少女の二人旅。パキスタンの小さな村に住む女の子。声を出せない障害を持った彼女を心配したお母さんと一緒に、インドまで願掛けに行くが、帰り道で一人取り残されてしまいます。そんな時出会ったのが、ヒンドゥー教のハヌマン神の熱烈な信者で底抜けにお人好しいインド人の青年。彼は、国境を越えて少女を家に送り届けることを決意し、2 人旅が始まる…

国境も宗教も憎しみで対立するのではなく、愛で繋がって越えていけること。この映画が今、再上映されていることに希望をみました。

主役二人は、ただただ可愛い & 愛すべき人で、目の前の困っている人を助けたい思いでいっぱいなんです、それでいい

んだよなあ、そこから始まるんだよなあ、と思いました。あちらこちらの国家の「指導者」と呼ばれる人たちにこそ見てほしいですね。(T)

■題名／バジュランギおじさんと小さな迷子

■監督／カビール・カーン

■出演／サルマーン・カーン、ハルシャリー・マルホトラ、カーリーナ・カプールナ、ワズドディーン・シッディーキー

■2015 年、インド、159 分、ハートフルドラマ

前回の例会報告

3 月 23 日(金)の前回例会では、9 歳で失明、18 歳で聴力を失いながらも世界ではじめて盲ろう者の大学教授となった福島智さんの生い立ちを実話にもとに描いた『桜色の

風が咲く』を観賞しました。

感想は 145 枚。「生きるということを深く考えさせるよい映画でした」「家族の愛のすばらしさを感じた」「智さんの細やかな苦悩が描かれてわかりやすかった」「実際には、この何倍もの苦労や葛藤があったことは想像できました」「自分を大切にし、自分にできることを目標に勇気をもっていくことも学びました」「人間は完全なものでもないことが分かり、だから支えあって生きていくんですね」と好評でした。

参加者は、会員 87 名、明石シネマクラブ 14 名、一般 236 名。

明石シネマクラブ例会情報

■名称／『ストーリー・オブ・マイライフ／わたしの若草物語』(第 83 回例会)(2019 年、アメリカ、135 分)

■監督／グレタ・ガーウィグ

■出演者／シャーシャ・ローナン、エマ・ワトソンほか

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■ストーリー／アメリカの南北戦争時代に力強く生きるマーチ家の 4 姉妹が織りなす物語。

■日時／6 月 28 日(金)①AM10:30-、PM2:00-、③PM7:00-

■場所／アスピア明石 9 階子午線ホール(JR 明石駅東徒歩 5 分)

■目的・内容／加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。

■受付／会場受付で、①加古川シネマクラブの会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662 (金沢まで)

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 079-425-4499 ※

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://kagogawacinemaclub.c.ooco.jp/>

会員数 122 人(3 月 22 日現在)

